

<p>目指す学校像</p>	<p>1 建学の精神 本学園は、日本国民としての常道に従い、人は生きた資本資産なりの理想に基づき、建学の精神を「人間是宝」と決めました。この精神は、生徒の将来を考え一人一人の内在する可能性をいかに開花させるかということにあります。この精神こそ、本学園建学の理念であり、本校教育の根源をなすものであります。 建学の精神「人間是宝」校訓「今日学べ」の具現に努め、文武芸芸四道の進学校を目指します。</p> <p>2 教育使命 若人の未来を考え、次のことを実践することを教育使命としています。 (1) 内在する可能性の開発 (4) 世界文化経済発展の先覚者としての自覚 (2) 創造する心と知性の育成 (5) 平和社会に貢献する奉仕の心の育成 (3) 人間性豊かな徳操の涵養</p>
<p>学校教育目標</p>	<p>1 けじめある心を育てる 2 自己開発に努力する心を育てる 3 創意工夫する心を培う 4 敬愛と感謝の心を育てる 5 健全な体と心をスポーツと文化で育てる</p>

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価		
年 度 の 目 標					年 度 評 価		
重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> ●定員の確保を図る。 ●入学者の質の向上を図る。 ●医学クラス・難関大クラス・進学クラスの偏差値の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学則定員は、各学年120名、3学年合計で360名であり、平成28年度は362名である。(充足率:100.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> ●志願者数の増大 ●入学定員の遵守 (100%~105%) 	<ul style="list-style-type: none"> ●志願者の増加と質の向上 ・学校説明会 年3回実施 ・入試説明会 年5回実施 ・体験学習会、入試問題学習会等 年3回実施 ・入試リハーサルテスト 年1回実施 ●入学定員の確保 ・入試改革を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●説明会への参加者が増加しているか。 ●受験者数の増加と合格者偏差値が向上しているか。 ●入学定員が厳守されているか。 ●説明会で学校の内容が的確に伝達されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●説明会等の参加人数はのべ2,044名であった。(昨年度対比70%増) ●志願者はのべ2,370名であった。(昨年度比2.2%増) ●入学者は182名で、定員を上回った。(医学クラス:28名、難関クラス32名、進学クラス122名)以上の取り組みにより、入学者の定員確保と、昨年以上の質の向上を図ることができた。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学校説明会、入試説明会、体験学習会等学校を知るための内容について工夫、改善を行う。また、説明会の参加人数2,000名の達成、志願者3,000名以上、入学者144名の達成。(医学クラス:30名、難関大クラス30名以上) ●生徒数は427名となり、充足率は118.6%となった。今後も定員を満たすことと入学者の質の向上に努める。
<ul style="list-style-type: none"> ●学習と部活動の両立と、家庭学習の習慣化を図る。 ●高校一貫部の大学進学を支援する。 ●授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中高一貫部の難関私立大学の合格実績は15名だった。(昨年度比-57.1%) 国公立大学が3名であった。(昨年度比-5名) 文武芸芸四道の進学校をめざし、学習指導・進路指導を充実させ、進学実績を向上させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上の具体的方策 ●中高一貫部の国公立大学・難関私立大学の進学実績の向上 ●授業力向上のための施策 	<ul style="list-style-type: none"> ●ディリーレポートによる生徒の家庭での状況の把握と、生徒は計画、実行、反省のPDCAサイクルを確立させる。 ●進路ガイダンスなどキャリア教育の充実を図る。 ●生徒が主体的に学ぶ授業を展開するために研究授業週間と授業参観を計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員が結果を共有し、PDCAのサイクルが確立されているか。 ●国公立大学・難関大学合格者数は増加しているか。 ●大学進学率は向上しているか。 ●学力推移調査で学力は向上しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国公立3、早慶上理3、GMARCH12、準難関大5名、日東駒専20名他多数の現役合格を果たした。(昨年度比、国公立5名減、早慶上理7名減、GMARCH13名減) ●進学実績はやや悪かった。 ●学力推移調査は国語は伸びているが、英語・数学の中下位が増えている。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●国公立・難関大学合格者数の具体的な目標値を設定し、授業内容の研究・改善及び進路指導を充実させる。 ●キャリア教育の充実を図り、大学進学のための学部・学科の指針を明確にする。 ●進路指導で、中高の連携を図り、OBとの座談会などを実施する。 ●中高の枠を超えた連絡協議会を開き情報交換を行う。 ●授業力向上を第一とする。また、スタディサプリ導入による課題の配信、学習状況の把握と、0限目・7限目補習の充実を図る。 ●中高一貫カリキュラムの見直しを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ●部活動の充実 	<p>〈部活動数〉 男子 運動部22部・文化部9部 女子 運動部16部・文化部11部 〈加入率〉 全校生徒の92.8%の生徒が部活動に加入し、年々充実してきた。今後は各部の活動内容の更なる充実を図ると共に、昨年以上に関東大会、全国大会等に優秀な選手を出場させることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●全国大会・関東大会への出場数 ●部活動への支援体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●優秀な選手の確保 各部の監督・コーチが少年団やクラブ組織の指導者との連絡・連携を密にし、優秀な選手の勧誘を行う。 ●教員の指導力の向上 各部の監督・コーチが指導力向上の為の研修を深める。 ●指導体制の充実 各部の監督・コーチと担任・教科担任との連絡を密に取り、勉学との両立を図る取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全国大会への出場6部以上が達成されたか。 ●関東大会への出場8部以上が達成されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全国大会への出場13部(個人・団体) 全国優勝部 3部、全国入賞部 5部 ●関東大会への出場11部(個人・団体) ●部活動加入率(3月末) 全体の部活動加入率 92.8%(前年比-1.4%) ●評価指標を大きく上回ることができた。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も更に各部の監督、コーチが少年団やクラブ組織の指導者との連携を密に取り優秀な選手の勧誘を行う事が大切である。同時に指導者の資質の向上に努め指導力向上のための研修を深めることが必要である。 ●生徒の学習と部活動との両立を図るため、各部の顧問が担任、教科担当者との連携を密に取り、生徒の現状把握と学力向上の手だてを図る。 ●部活動を通じてさらなる「人間力の育成」を図り、本校の教育目標を達成していく。 ●高校の部活動との連携を図り、可能な限り中高一貫指導体制を確立する。
<ul style="list-style-type: none"> ●学校改革 	<ul style="list-style-type: none"> ●医学クラスの教育体系の構築 ●進路指導センターの充実 ●放課後7時限目の活用 ●第二外国語選択制 ●長期休業中の補習の充実 ●夕食の提供 ●キャリア教育の充実 ●基礎学力の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●医学クラスの状況 ●進路指導センター主導による放課後の任意プログラムとキャリア教育の進捗状況 	<ul style="list-style-type: none"> ●医学クラスについては、平成28年度から募集を開始。 ●進路指導センターについては、将来の生き方なり方を踏まえた進路指導を統括し、生徒の適性を考え担任と協力し、統一感をもって指導する方向に転換した。 ●補習から食事まで、放課後を一括してプログラムを作成中。 ●経済同友会と連携したキャリア教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各改革案が実行されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医学クラスの定員は20名で、28名が入学してきた。また、難関大クラスも32名が入学し、基本的な体系を整えることができた。中高一貫教育を前提とするが年度ごとに難関大クラスからの編入も可能とする。 ●放課後の補習体制は部活動と両立を図ることを大前提に進路指導センターが生徒個々に応じた指導を計画立案している。 ●夕食を提供している。 ●経済同友会の講演会、教育フォーラムへの参加。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●医学クラスの募集活動と、カリキュラムの提示。 ●放課後補習と第二外国語の検証と更なる発展的施策を行う。 ●教育課程の検討とPDCAサイクルの確立。 ●6年間一貫したキャリア教育の確立をめざす。 ●授業、補習、部活動、学校行事等すべてを関連させ、学校全体で体系的に教育内容を充実させる。

○達成度

A: 充分達成 (100%)

B: 概ね達成 (80%程度)

C: 変化の兆し無し (50%前後)

D: まだ不十分 (30%程度)

E: 方策の見直し (20%未満)